



政策の柱・その2 コロナ下の経済と向き合う！社会基本整備はしっかり見極める！

1. ウィズコロナを受け入れ経済を支える。

命が大事、医療の確保を前提として経済を回していくかなければなりません。一方、生活を守るために経済を止めることはできません。政策や事象に対し常に反対の視点で報道に惑わされることなく、事実を見極めて考えなければなりません。残念ながら、コロナが収束すること、今までの感染症と同様に感染者が完全になくなることは無いかも知れません。ウィズコロナを受け入れしっかり経済を回すための方策を求め本市の速やかな施策を実行していきます。

2. コロナ下だからこそ松山をPRできる。

コロナ下で、テレワークが推進されています。また、会議等においてもWEB会議が増える中、大都市の本社機能の中でオフィスの在り方が見直しされ、不動産資産の売却が進んでいます。つまり、本社採用で、通常勤務や住まいは地方という働き方が進んでいきます。本市は、家賃が抑えられる上、空港が近く飛行機便数の多さもあり、誘致において十分に戦えると思います。雇用があり働きやすいこの松山を知って頂き、現役世代の人口を増やしていくことが大事です。



3. 市駅前広場整備事業について！

市駅前広場を改変する構想があり、市駅前に歩行者専用の交流広場を設けると共に、歩行者が広場を中心に路面電車と郊外電車がスマーズに乗り換えでき、点在するバス乗降場を1カ所に集約する再開発構想案で、すべての車両を通行させない計画で進みつつあります。課題としては、周辺道路の円滑な交通処理をはじめ、駐輪対策やタクシー、一般車の乗降スペースの確保のほか、花園町通りや銀天街への人の流れや動線の確保などが挙げられ、十分に調査検証して課題を解決できる根拠を示して事業を進める様に求めています。



4. 市民の生命財産を守る！

想定外ではなくなくなった浸水想定地区では、常に浸水するという不安、常習化したストレスを抱えています。想定外ではなくなくなった浸水想定地区的根本的な対策のために雨水管の調査及び改修工事を促進する必要があります。また、各課が連携して新設及び改修工事時に、浸水地区解消のために雨水管の調査や改修工事を実施する考えはないか。そして下水道整備地区外でも頻繁に浸水被害が起こっていることから、さらなる対応を求めていきます。



政策の柱・その3 教育が変わる！

1.GIGAスクールがはじまる。

GIGAスクール構想がスタートします。すべての小中学校児童生徒に『1人1台端末』での教育が始まりました。これからの時代を生きていく上で基盤となる言語能力や情報活用能力、AI活用の前提となる数学的思考力をはじめとした資質・能力の育成につながる教育が必要不可欠です。また、義務教育に将来の夢として仕事というキーワードが不可欠ですが、エクセルやワードなどビジネスで活用できる知識をつけることを提言していきたいと思います。

2. 選ばれる本市の小中学校へ！

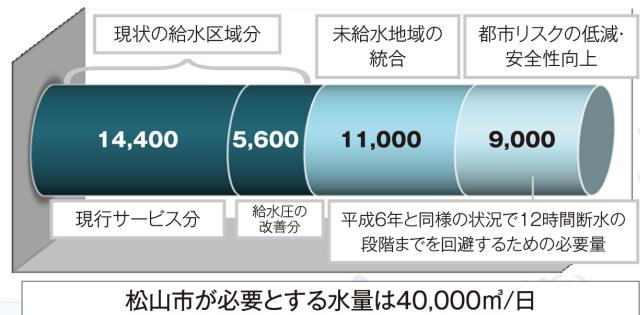
本市では、私立学校が多くあり、多くの方が受験しています。授業料が必要なことから、すべての子ども達に機会があるわけではありません。学力差が経済格差であってはならず、選択肢が増える中で、市立小中学校は競争原理の中にいることを直視し、学力向上に力を入れることはもちろん、公立だからこそできる、地域へのつながり、郷土愛、すべての生徒に寄り添うことを充実していくことが大事です。

3. 特別支援教育を充実してほしい！

障がいがある児童と保護者から、近年は、本市小中学校特別支援学級や通級による指導を選択するケースが増えています。個々の個性にあつたきめ細やかな現場対応が求められており、教諭の人員確保とスキルアップが急務となっていることから指導教諭のみならず、教員全員を対象にした指導育成が重要になります。特別支援教育の充実を引き続き働きかけていきます。

5. 水問題の解決は必要水量そして方策を再検討する！

平成6年の大渴水から進展がみられないまま27年、西条黒瀬ダムからの分水を求めていましたが頓挫し、令和元年、本市が必要とする水量は、日量最大4万トンと再表明、本市が安全安心な都市を目指す上では、新規水源の開発には多額の費用を要し、水道料金への影響は避けられないことから現時点で優先度は低いと考えています。そもそも日量最大4万トンの再検証も必要です。総務省では広域的な連携強化についても、地域の実情に応じ、経営基盤の強化、経営効率化の推進等を図るために方策として検討するよう市町村等に対し広域での議論を求めていることから、新規水源の検討と並行して、料金や財政状況、施設整備等の事業者間格差や課題を調査し、県の主導による積極的な検討も必要です。市議会水資源検討特別委員会の委員としてしっかりと取り組んでいきます。



政策の柱・その4

遊び場があり仕事があるまちづくり！

ICT普及により、立地のリスクが軽減されつつあります。魅力あるまちに発展していくには、若い人に魅力があることで、それは遊び場があることだと考えます。本市が本来持っている財産を生かし、自らが楽しめる体験型の遊び場があることが大事です。そしてその生活を支える中小企業や個人事業主が、元気で多様な仕事があり雇用があることです。西条市が住みたい田舎ベストランキングで総合・若者・子育て・シニアの4つすべての部門において全国1位で、史上初の4冠を達成しました。魅力あるまちづくりを学んでいきたいですね。



新しく始まる政策・サービス

1. 上下水道のワンストップサービス！

4月から松山市の上下水道料金や給水設備・排水設備、特設排水管の窓口が、市役所第三別館1階に集約されます。

2. 高額医療・高額介護合算医療費等申請

4月から同じ世帯で医療・介護を利用した場合に、年単位で自己負担を軽減する制度です。対象者には3月に送付されています。

3. 市民サービスをキャッシュレスで交付できます。

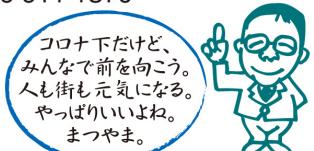
3月1日より感染予防の観点から、市民課と市民サービスセンターで住民票の写し等の証明書の交付手数料の支払いは、キャッシュレス決済ができる様になりました。

4. 不妊に悩む方々へ特定治療支援事業を拡充します。

婚姻関係のある夫婦に、生涯通算6回から1子ごと6回に。金額も増額されました。

詳しくは、健康づくり推進課 ☎089-911-1870

できることから、
ひとつづつ



原しゅんじ市政報告会

9/20(月・祝) 17:00~

ANAクラウンプラザホテル松山

今後の情勢を考慮して開催を決定します。

開催状況に関するお問い合わせは、

089-974-8812

(原しゅんじ事務所)